

# 十勝川の支流で校外学習 育てたサケの稚魚を放流

4月18日、札内北小学校の6年生児童81人が、総合的な学習の時間で、卵から育てたサケの稚魚を放流する校外学習を実施しました。



## 大きな体になって

札内北小学校では開校以来、毎年サケの放流学習を実施しています。

5年生時の3学期から児童玄関の水槽で、水温調節やふ化の時期、大きさなどを交代で観察、記録していました。

この日は、十勝釧路管内さけます増殖事業協会が管理する「さけますふ化場」まで移動し、自分たちが卵から育ててきたサケの稚魚約200匹を十勝川支流のメシ川に放流しました。

体長約4センチまで成長した稚魚をコップに数匹ずつ入れ放流すると、歓声を上げていました。

最後は児童全員で、大きくなって故郷に戻ってくることを願いながら「元気に帰っておいでよ〜!」と叫びました。

篠原こはく小伯さんは「さよならするのはさみしいけど、もっと大きな体になって帰って来てほしい」と話していました。

# 札内北小学校今昔物語



▲札内北小学校



「北」という字の3画は、目標の具現化を図るための協同作業であることを表しています。

昭和50年代に入り、帯広市に隣接する札内地区の人口は急激に増加し、白人小学校の通学区域を分けて、札内南小学校が新設されました。その後、札内北地区の児童数が増加したことや交通量の多い国道38号線を横断する危険性を解消するため、札内北地区に新しい学校が建設されることになりました。

昭和56年、23336平方メートルの鉄筋コンクリート造り2階建の「札内北小学校」が開校。校章は、当時在職していた石川教諭がデザインしました。

「北」という字の4画外に出てくる4画は、4つの教育目標を表し、円形は4つの教育目標の調和と発達を意味しています。「小」という字の3画は、教師・地域父母・教育関係者の3者で、目標の具現化を図るための協同作業であることを表しています。

## 札内北小学校 の沿革

1981年4月(昭和56年) 札内北小学校の開校(当時の児童数288人)

1981年5月(昭和56年) 全校児童で開校記念植樹(アカエゾ松300本)を実施

1981年9月(昭和56年) 校歌と校章を制定

1990年7月(平成2年) 札内北小学校プールがオープン

1990年10月(平成2年) 開校10周年記念式典を挙げる

2000年(平成12年) 開校20周年を記念して、記念植樹と航空写真を撮影

2010年(平成22年) 開校30周年記念式典を挙げる

## 学校概要

学校長 沼田 拓己  
教員数 25人  
学級数 17学級  
(うち支援学級6学級)  
児童数 312人

※概要は平成25年5月1日見込